（別紙4）　　平成　26　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2190200077		
法人名	合同会社　聖恵会		
事業所名	恵みハウス		
所在地	岐阜県関市大平台14－5		
自己評価作成日	平成26年11月10日	評価結果市町村受理日	平成27年　5月　1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2190200077-00&PrefCd=21&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　中部社会福祉第三者評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566－1
訪問調査日	平成26年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

隣人愛の理念にもとづき地域密着の介護施設として周りの方のに支えられ、4年目になりました。地域行事として10月に関市のグループホームの運動会のお誘いを受け、重度の方が何人かおられる中2名の方が出場され、施設の方や体験学習の中学生数名が応援に参加しました。そのお陰で努力賞が戴けました。出場の男性利用者様は花嫁さんの仮装で楽しい時を過ごせました。お盆や敬老の日にはお好きな和食を食べ家族の様に喜びました。地域の避難訓練には近所の方や民生委員さんがお手伝いくださいました。また地域の文化祭には利用者と中学生が共にﾃｰﾌﾞﾙｾﾝﾀｰや花瓶や絵画を制作し出品できました。またこの春から利用の胃ろうの方がお口から食べられるようになり、介護職ともども励まされています。今後も地域に根差す介護施設として努力して行きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「隣人愛」全ての人が平等に。前夜来の秋雨も上がり、利用者の楽しみにしていた「紅葉狩り」が実施された。行き先の公園は変更になったが、昼食会場の「寿司割烹店」、懐かしい展示物の数多い「フェザーミュージアム（刃物博物館）」は予定通りである。この行事に、盲目の女性利用者が参加した。紅葉の美しい公園に降り立つと、両脇を職員とボランティアの女性が支える。「おばあちゃん上を見て、紅葉が綺麗よ」職員の声に応えて老女は笑みをたたえて上を向く。「見えている！」驚きである。

「寿司割烹店」では、職員の声の誘導でとんかつ定食を何不自由なく完食した。「フェザーミュージアム」では、職員に手を引かれて玩具の展示室に入る。「綺麗な羽子板だね、おばあちゃんもこんなので遊んだ?」との職員の声に、老女はガラスケースの中を覗き込む。「見えている！」まさに心眼である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私共の仕事の礎は「隣人愛」であること、隣人に仕えることが仕事であることを申し合わせている。併せて実践の難しさをも共有しながら軌道修正をしている。	法人理念として「隣人愛」を掲げており、併設の小規模多機能事業所の利用者をも合わせ、2事業所が分け隔てのない支援を展開している。「紅葉狩り」に同行した折にも、様々な「隣人愛」の実践に出会った。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	手伝いに来て下さる民生さんと馴染みになり、散歩や行事など民生さんが率先して繋げてくださっている。	前夜から降り続いた秋雨も上がり、「紅葉狩り」が実施された。中には、目の不自由な女性利用者も含まれていた。公園に降り立った盲目の利用者を両脇で支えるのは、右側に職員、左側に地域のボランティアである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外食やおやつツアーの時など近くのスーパーや飲食店でお世話になったりして認知症であっても少しのサポートでいつものように出掛けられることを周りの方に理解してほしいと願っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	特に運営推進会議のおかげで自治会や民生さんが声をかけて下さり、時に外出時のお手伝いや畑の土おこしを手伝って下さる。また地域の避難訓練には手を貸して下さっている。	2ヶ月に1回のペースで、併設の小規模多機能事業所と合同で運営推進会議を開催しており、ホームから詳細な活動報告を行っている。参加メンバーによる討議の様子が、議事録に綿密に記録されている。	市条例にも定められている通り、「目標達成計画の評価」が実施されていない。目標達成計画の進捗を管理（評価）することは、会議の役割であることを理解させてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回の運営推進会議において気安く質問できたり、今期は地域包括からも出席頂けて心強くｱﾄﾞﾊﾞｲｽ頂いている。	運営推進会議には、必ず市の職員が参加しており、事業所の状況は伝わっている。疑問点がある場合や制度変更時の不明点は、即座に行政に問い合わせることとしており、関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様がどうしたいのかどういう行動をしたいのか職員間でアイコンタクトをとり、ﾊｳｽとｹｱｾﾝﾀｰとを自由に移動して頂いている。夜間独り対応の時は施錠している。	身体拘束の無い支援の重要性を全員が理解しており、玄関等にも施錠がなく、自由度の高い支援の実践がある。目の不自由な女性利用者の行動にも制止の言葉掛けはなく、見守りを中心とした支援が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	隣人愛を第一としており、利用者様とご家族との信頼関係を築きたいと願っているので職員間でストレスを溜めないよう幹部職が話を聞いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協の自立支援事業についての情報を職員間で共有している。去年包括の方のお世話で成年後見制度を利用されて今は良い方向に向かっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に今年は消費税が8%になり、契約書を一部変更することになり、ご家族様方に説明し了解を得て市役所に報告しました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時をチャンスとして話をする中要望など聞かせてもらっている。また遠方のご家族にはメールや電話などで利用者様の様子をお伝えしている。	遠隔地に住む家族も、都合をつけてホームを訪問している。家族アンケートには、医療面の充実や何かあった時の対応の素早さ等、体調管理面での感謝の言葉が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング等また折に触れて職員の要望や前向きな意見を貰っているが外国籍の職員が1/2であり、文化、常識、言葉使いの機微の理解が難しく苦慮している。更に目標として努力の必要を感じている。	複数名の外国籍の職員が雇用されている。文化の違いや言葉（文字）の難しさを、外国籍の女性職員たちが必死に克服しようとしている。電子辞書や携帯電話の辞書機能を駆使し、介護記録に向かっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法にのっとり、人員配置は手厚くしている。個々の努力、やりがいを持っているかを把握し、公平になるよう努力している。有給、産休、育休をとる機会を与えているがお世話だけがが介護ではないことを常に伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外国籍の職員が理解できるには実際現場でのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝをどうしたらよいかを一緒にしたり、外国籍の職員の工夫で認知症対応で適切な例を紹介して理論より現場で覚えてもらっているが目標達成にはさらに努力を要する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度地域包括の方たちのお世話で地域密着型の同業者の集まりを開いて下さっているので従来の居宅のケアマネ会と併せて出席させてもらっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの情報はもとより、困っていること不安な事をキャッチすべく、経済的な事などこちらから投げかけて協力させていただくことで話を進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人や家族様が一番関心があること不安な事などこちらで想定してお話ししたり、ｹｰﾀｲﾒｰﾙで報告するとすぐ返事が戴けたりする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特に健康面など家族様が気にしておられることなど気軽にｹｰﾀｲﾒｰﾙで適った情報を入れているとすぐに返信が入り、メールの有難さを実感している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯ものたたみを一緒にしたり、掃除を手伝ってもらったり部屋の飾りを一緒に作ったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームで生活されても家族のきずなは大切なものと皆で思い、お孫さんや曾孫さん連れの面会では次に来てもらえるよう職員一同楽しみにしている旨伝えている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	郵便局に長く勤めておられた方を外食等にお連れする中「ああ懐かしい、あの店」など感動され、スピードを緩める事が良くある。昔行かれた店にお連れできたらいいと話し合っている。	目が不自由な女性利用者は、かつて隣接の小規模多機能事業所を利用していた。彼女は、日中を住み馴染んだ小規模多機能事業所で過ごし、何一つ不自由なく暮らしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「オーイおーい」と奥様を呼んでおられる不穏な方を古い利用者様が相手をして下さっていることがよくある。今後も馴染みの関係を作っていってほしいと願っている。目標達成にさらに努力を要する。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられ、契約が切れた後でも職員が個人的に出くわすことがあるが相談には至ってない。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「家に行きたい」と何度も哀願される利用者様に何とか家にお連れしたいとの願いをﾄﾞｸﾀｰや家族様に働きかけ、何とか仏間にお連れでき、すぐ帰所になったが職員間に安心が得られれた。それから1か月半して亡くなられた。	「もう一度家に帰りたい」との思いを募らせている女性は持病の悪化で重篤な状態である。「今しかない」病状のわずかな好転を見て取った職員が、無理を承知で家に連れて帰った。仏壇に手を合わせるのがやっとだった。	左記の状況から数日後、この女性利用者は「思いを遂げて」天に召された。自身の足では畳を踏めなかったが、思いは叶った。優しい職員に囲まれて、幸福な人生でしたね。合掌。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	摂食量の減ってきた利用者様がお家におられた頃は寝る前にテレビを見ながらおやつを食べておられたというので同じようにしたら食事も少しずつ食べてもらえるようになった。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録では掴めない情報が中々得にくい状態であるが家族様親戚の方が面会に来られる中何とか話を聞かせてもらおうとアタックしているがプランに直結できるには距離がある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医療依存度が高い方が多いがそれでも笑顔が得られるよう職員が暖かく対応している。外国籍の職員でも言葉がｶﾀｺﾄでも伝わっている事実をつかめた時は慰められた。	ADL中心であった介護計画を、意識的に「思いや意向をかなえる」プランへ変えようとの意識はある。帰宅願望の強い利用者には、「家に帰ること」を主題としたプランが作成されていた。	思いや意向を表出できる利用者がだんだんと減ってきてはいるが、様々な角度から思いを捉え、それを叶えて思い残しのない人生を支援してほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	外国籍の職員が懸命に日本語の勉強をしている。ｶﾀｺﾄの言葉でも認知症の人にストレートに暖かさが伝わった例を時々聞くので、さらに希望を持って互いに学んでいきたい所である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度の方でも寝たきりにしないプランで昼食以降おやつまで離床してもらっている。一時期具合が悪かったが今は人にお説教できるまでになられ、介護は双方共に辛抱を継続することだと思い知らされている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	礼拝に行きたいと熱望しておられる利用者様には教会の人に送迎をお願いしている。また民生さんには外出時のボランティアをお願いできて施設としては感謝なことである。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設のｸﾘﾆｯｸが基本であるが、専門外にお連れする時は院長先生に紹介状を書いてもらっているので安心である。また月に2回往診に来て下さり、毎木曜にはﾄﾞｸﾀｰとの話し合いをもって指示を仰いでいる。	隣接のクリニックがホームの運営母体であることから、全ての利用者がかかりつけ医として受診している。利用者・家族からの信頼や安心感の基となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	大変重度の方にはﾄﾞｸﾀｰを通して訪看さんが来られ、ｱﾄﾞﾊﾞｲｽを受けたりして介護職としても襟を正して技術を学ばせてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時介護情報を提供することはもちろんのこと、折にふれて見舞い、家族様からも情報を得て退院されてからもよき介護が出来るよう院長先生から情報提供や指示を貰っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用時にご本人、特にご家族に救命救急に関しての同意書をとり、ﾄﾞｸﾀｰの指示を受けながら介護に当たっている。また家族様とは詳細に連絡を取り、進めている。同時にﾍﾙﾊﾟｰでは医療行為が出来ないことを了解してもらっている。	ホームとしての支援の限界を利用開始時に伝えており、利用者・家族から方針についての同意書を取っている。基本的には、利用者・家族の意向に沿って、可能な限りの支援をしようとしている。看取りの知識、技術共に十分である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まず併設のｸﾘﾆｯｸﾄﾞｸﾀｰに報告し、現場にいる職員（ﾅｰｽ、ﾍﾙﾊﾟｰ）が救命救急処置をする。ミーティングでは予想される危険について随時話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	１１月には消防署立ち会いのもと通報訓練、消火器取扱い訓練を実施し、その前の１０月には地域の防災訓練に利用者様と共に参加した。この８月には大雨で避難できない寝たきりの方を民生さんの依頼でお受けした。	市の社会福祉協議会からの依頼を受け、大規模災害時の緊急避難所としての役割を持つこととなった。消防との連携で、ホームを独居の高齢者の避難場所として提供し、大雨被害の住民を受け入れた。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様情報に守秘義務があるのは常時ミーティング時に申し合わせている。気を抜いた時に出やすい差別語や不快語が出ないようとくに外国籍の職員が多いので注意を申し合わせている。	目の不自由な女性利用者への言葉かけに驚かされた。「おばあちゃん上を見て、紅葉が綺麗よ」、「綺麗な羽子板だね、おばあちゃんもこんなので遊んだ?」全盲の老女に、職員が話しかける。全く普通に。	職員は、100歳に近い老女の目が不自由だとは思っていない。2つの眼では見えないが、心の目で見えていると思っている。それが証拠に、老女は上を向き、下を向き頷いていた。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の関心をよく知っているのは現場であり、引きこもらないよう、一緒にスナップ写真を見て切り抜いて壁飾りのアイデアを戴いている。また10月には2名の方がｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑの運動会に出場され、ｹｱｾﾝﾀｰからも応援に行った。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活歴、背景、思いなど新しい発見をした時はスタッフ間で共有できるよう工夫し合っているが、本当に利用者様の希望に添えているかは課題としてのこる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に床屋さんにお連れしたり、移動が困難な方やこだわりがある方には美容師さんに訪問してもらっている。夜勤者が朝の整容に時々女性利用者に好みの造花を髪にさし、鏡を持たせている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	胃ろうの方が普通食摂取でき、職員が励まされている。今では薬のみ胃ろうから注入している。また利用者様の家族や近所の方から野菜をいただき、皆さんで戴いている。	「紅葉狩り」の次は「寿司割烹店」での昼食である。盲目の女性利用者のオーダーは「とんかつ定食」。「右側にお吸い物があるよ」、「その向こうにお漬物があるよ」隣の席の職員の声の誘導で、見事に完食した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療依存度の高い方やﾄﾞｸﾀｰから指示のある方について摂食量水分摂取量食事内容等細かい記録は外国籍職員には時に幹部が聞き取ったりして記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で口腔ケアが出来ない方には必ず食後の口腔ケアを職員間で確認し合っている。ミーティングで口腔ケアの重要性例えば爽快感だけでなく誤嚥肺炎を防ぐためなど話し合っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員ではないが排泄表を作って間隔を掴むようにしている。また寝たきりに近い人にも排泄表で体位交換などチェックして褥瘡予防にも役立てている。	寝たきりの利用者もおり、褥瘡予防を排泄支援の延長として考えて支援している。排泄表によってパターンを把握し、適切な声掛けや誘導が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録での排泄チェックで便秘を判断する。ﾄﾞｸﾀｰも見ている。時々おやつは手作りでイモ類など繊維系のものを使い、利用者様はそれを懐かしそうに食べておられる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ﾊｳｽは月水金が入浴日になっている。お家におられた頃は夜に入浴だったはずだが現状では困難であり、拒否の強い方や体調によりｹｱｾﾝﾀｰで入って頂くこともある。	ホームの一般浴槽では対応が難しいと思われる数名の利用者が、隣の小規模多機能事業所の機械浴槽を使って入浴支援を受けている。週に3回の入浴が基本である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共同の生活の為に21時消灯となっているが好きな番組が21時で終わらない時は見守り、柔軟性を持たせている。2時間ごとの巡視で安全を見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療職より薬の内用や副作用について報告や申し送りがあり、必ずお一人お一人名前、月日、食前食後食間を確認して当たることを義務付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に最低1回は外食に行くので一人一人ﾒﾆｭｰ選びをしてもらっている。また自発的に掃除をして下さっている男性利用者さんもいて周りからｱﾘｶﾞﾄｳの言葉が飛び交い笑顔が多いこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度の方が多い中体調に触るので散歩にもお連れできない方には収穫できた野菜や散歩でとってきた花やｽｽｷなどお見せしたりしている。調子の良い時はﾚｸﾎﾞﾗﾝﾃｨｱさんが来られた時など集ってもらえてｶﾁｭｰｼｬをつけて参加されたこともある。	「聖恵会だより」にも、「運営推進会議議事録」を読んでも、ふんだんに外出支援が記事になっている。市内のグループホームの大運動会には元気な利用者2名が参加し、ボランティアとして馴染みの深い中学生たちの応援もあって努力賞を獲得した。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金所持やｹｰﾀｲは遠慮してもらっている。ﾊｳｽは家族様から預かり金を預かり、床屋さん美容院　医療費薬代、日常品など購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ｹｰﾀｲ所持は遠慮してもらっている。手紙のやり取りが出来ればよいが遠方の妹さんからの手紙が時々届いたり、目の不自由な方には関市から点字の広報が届き、楽しみにしておられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間は小ざっぱりしているのが良いが利用者様の家族様から花や人形や玄関マットをプレゼントされ飾っている。トイレや浴室は感染症予防の観点から清潔にするよう申し合わせている。	ホームの食堂兼居間は日常的な生活の場となっており、併設の小規模多機能事業所へ出かけて行って非日常（イベント、行事等）を満喫することも多い。隣接の小規模多機能事業所と有機的なつながりで運営されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後にソファでのんびりおしゃべりしたりテレビのニュースで驚いたり昔のことなど会話に花が咲いたりすることもあったり、スタッフがギターを弾いたりして過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お孫さんの写真やプレゼントされたﾌﾞﾘｻﾞｰﾄﾞﾌﾗﾜｰや懐かしい人形やご主人や奥様の写真を置いて夕がたお経を上げたりされている人もある。	居室には洗面台が設置されており、洗顔、化粧、口腔ケア等に有効に利用されている。ほとんどの居室に花や家族の写真が飾られており、目の不自由な女性利用者は点字の書籍を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、リビング、また手すりの位置など全盲の方がおられるので空間を認識して頂けるようにテーブルや腰かけの位置など変えないようにしている。		